

平成 28 年 6 月 29 日

ブラインド等のひもの事故に気を付けて！
ー平成 22 年から 26 年までに 3 件の死亡事故ー

1. 家庭におけるブラインド類やスクリーン類のひも部分、カーテン留め等のひも状部分は、子供の首に絡まり、窒息して死に至る危険性があります。
2. 消費者庁が、厚生労働省「人口動態調査」の調査票情報を入手・分析したところ、平成 22 年から 26 年までの 5 年間で 3 件の死亡事故（5 歳未満）が確認されました。
3. また、経済協力開発機構（OECD）が実施した調査によると、世界 15 か国で 250 件以上の死亡事故が把握されています。
4. 子供が過ごす部屋のブラインド等には、ひも部分がない等の安全性の高い商品を選びましょう。また、既にひものあるブラインド等を設置済みの場合は、クリップを取り付けて、子供の手の届かない位置にひもをまとめましょう。
5. OECD は、平成 28 年 6 月 23 日から 30 日までを「ブラインド等窓カバーのひもの安全性に関する国際啓発週間」としました。日本、米国、EU、オーストラリア等の 25 の国と地域が参加し、啓発に取り組みます。

1. ブラインド等のひもの危険性

家庭におけるブラインド類やスクリーン類のひも部分、カーテン留め等のひも状部分などが、子供の首に絡まると、気道閉塞による窒息又は酸素欠乏による神経障害が起こり、これによって 15 秒以内に気絶し、2～3 分で死亡する可能性があります。

事故は、保護者等が普段は安全だと思っていた寝室やリビング等で、突然、静かに発生するため、保護者は事故が発生しても気付かない可能性があります。

【写真】 起こり得る事故の状況のイメージ



（出典）米国消費者製品安全委員会（CPSC）

2. 事故情報

(1) 我が国での発生状況

平成 22 年から 26 年までの厚生労働省「人口動態調査」の調査票情報を消費者庁が入手・分析したところ、ブラインド等のひもによる 5 歳未満の子供の死亡事故が 3 件確認されました。

また、死亡事故以外にも、平成 19 年以降、7 件の事故が確認されており、死亡事故を含めると計 10 件の事故が確認されています。

(表1) 日本におけるブラインド等のひもによる事故

事故発生・受付年	事故件数	(うち死亡事故)	年齢
平成19年	1	0	4歳
平成24年	4	3	0歳、1歳、2歳、4歳
平成25年	5	0	1歳(3件)、1～4歳(注)、6歳
合計	10	3	

(出所)「平成25年度東京都商品等安全対策協議会報告書」及び厚生労働省「人口動態調査」調査票情報により作成。

(注) 事故情報データベースの年齢区分による。

【事例1】(ブラインドの近くに配置されたベッドで事故になった事例)

ベッドに寝かせていたが、ブラインドのひもが子供の首に巻いていて反応がないのを、床の上で発見された。寝返りをしてベッドから落ちた際に、たまたまひもが首に食い込んだと推測されている。

(平成 24 年 11 月発生 6 か月男児 死亡：日本小児科学会 Injury Alert (傷害速報) 情報)

【事例2】(出窓の側にソファが置かれていて事故になった事例)

ブラインドのロープが切れる音がして振り向くと、女兒が首を押さえており、首にロープの跡が赤く残っていた(治るのに一週間以上掛かった)。首にブラインドのロープが引っ掛かったまま、出窓の部分からソファに跳んだと思われる。

(平成 25 年 8 月受付 6 歳女兒：事故情報データベース情報¹⁾)

¹ 「事故情報データベース」は、消費者庁が独立行政法人国民生活センターと連携し、関係機関より「事故情報」、「危険情報」を広く収集し、事故防止に役立てるためのデータ収集・提供システム(平成 22 年 4 月運用開始)。

【事例3】（遊び中に誤って事故になった事例）

かくれんぼをしていたところ、誤ってブラインドのひもに首を掛け、締められてしまった。病院へ連れて行った。今は元気になっているが、半日ほど意識不明の状態だった。

（平成25年2月発生 1～4歳：事故情報データベース情報）

（2）世界での発生状況

平成28年6月の経済協力開発機構（OECD）の調査によって、世界15か国で、1996年以降に死亡事故が250件以上把握されていることが分かりました（詳細は別紙）。事故は9歳までの子供に発生していますが、大部分は、3歳未満の子供に発生しています。

（表2）世界におけるブラインド等のひもによる事故

	期間	事故件数	（うち死亡事故と判明しているもの）	年齢
オーストラリア連邦	2001年以降	21	21	—
カナダ	1996年以降	44	29	—
フランス共和国	2004年-2014年	4	1	1、2、3、9歳
日本	2007年-2015年	10	3	0、1、2、4、6歳
大韓民国	2013年-2015年	5	1	7歳未満
英国	1999年-2016年	39	28	—
アメリカ合衆国	1996年-2012年	285	184	8歳以下
その他	判明している中で最も古いのは2010年	9	2	0、1、2、3、4歳
合計		417	269	

（出所）OECD資料（別紙）等により作成。

（注）その他は、チリ共和国、フィンランド共和国、アイスランド共和国、イスラエル国、トルコ共和国である。

【事例1】（いつもひもをまとめていたが事故になった事例）

両親は、子供たちが引っ掛からないように、いつもシェードのひもをまとめていた。男児（1歳10か月）が、兄（4歳）の部屋で遊んでいたところ、父親が10分ほど目を離れた後で部屋に戻ると、男児が両脚を床につけた状態でひもを首に絡めて立っていた。ひもは、絡まり合って男児の首に食い込んでいた。10日後、男児は窒息が原因となって病院で亡くなった。

（出典：米国消費者製品安全委員会（CPSC））

【事例2】（窓際が好きな女兒の事例）

ある朝、もうすぐ4歳になる女兒が自分のベッドルームで遊びながら映画を見ていた。彼女は窓から外を見るのが好きで、その日もそうしていた可能性が

ある。お昼頃、母親は昼食を作っていたところ、母親が最後に女兒を見てから5分から15分後、女兒が横型のブラインドのひもにぶら下がっているのを兄が見付けた。女兒の父親は苦勞して娘の首からひもをほどいたが、女兒は病院到着時に死亡が確認された。

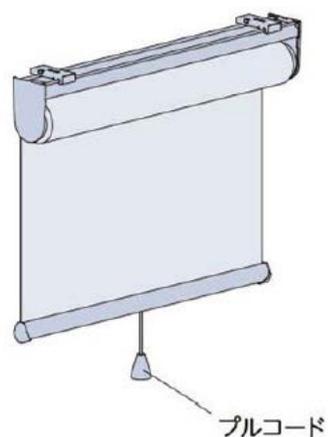
(出典：米国消費者製品安全委員会(CPSC))

3. 消費者への注意喚起

(1) 安全性の高い商品を選びましょう。

ひも部分がない、又はひもがあってもループがない若しくは小さい商品では、子供の首がひもに絡まる心配がありません。

(ロールスクリーン)

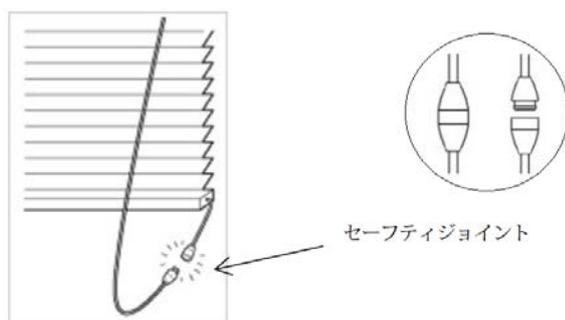


(縦型ブラインド)



(出典：「平成25年度東京都商品等安全対策協議会報告書」)

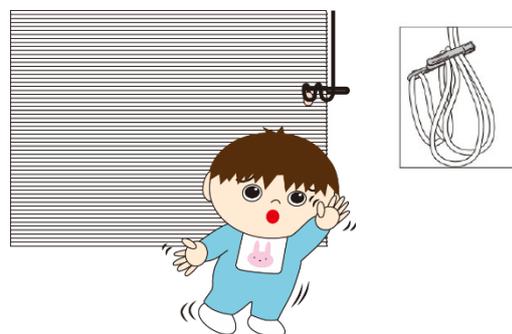
また、一定の重さが掛かると、ひものつなぎ目部分が外れる「セーフティジョイント」などの安全器具を備えた商品もあります。安全器具について標準的な試験方法等を定めるJIS規格の策定について検討が進められています。



(出典：「平成25年度東京都商品等安全対策協議会報告書」)

(2) ひもの安全対策が施されていない商品では、クリップ等でひもをまとめましょう。

ひもの安全対策が施されていないブラインド等の商品を使用中の方は、クリップ等の安全器具を使用し、子供の手の届かない位置に、忘れずにひもをまとめましょう。安全器具の入手方法については、ブラインドメーカー等にお問い合わせください。



(3) ソファやベッドをブラインド等のひもの近くに設置しないようにしましょう。

子供がソファやベッド等に登り、ジャンプや転落してブラインド等のひもに引っ掛かることや、ブラインド等のひもに手を伸ばすことがあります。このため、ソファやベッドは、ブラインドひもの近くに設置しないようにしましょう。



本件に関する問合せ先

消費者庁消費者安全課 高瀬、小林

TEL : 03(3507)9137 (直通)

URL : <http://www.caa.go.jp/>

※OECD資料を消費者庁で仮訳・編集したものです。

経済協力開発機構（OECD）の取組について

【名称】

Window Covering Cord Safety Campaign

(ブラインド等窓カバーのひもの安全性に関するOECD国際啓発キャンペーン)

【期間】

2016年6月23日（木）から30日（木）まで

【目的】

キャンペーンメッセージ

安全性に関する注意喚起

2016年6月23日から30日まで行われるOECDの（OECD/CCP/製品安全作業部会主催の）国際消費者啓発キャンペーンは、ブラインド類やスクリーン類、カーテン等のひも付き窓カバーの危険性はなかなかなくならず、発見されにくく深刻であることを消費者に周知し、幼児が住んでいる、又は訪ねてくる御家庭において、別荘や休暇を過ごす住居を含めて予防策を講ずるように促すことを目指しています。

子供、特に3歳未満の子供が過ごす場所に、（ループ状になる等）安全性に欠ける窓カバーのひもがあると、命に関わる場合があります。安全性に欠ける窓カバーのひもが子供の首に絡まると、以下のような結果が生じる可能性があります。

- ・気道閉塞による窒息
- ・酸素欠乏による神経障害
- （以上により、）
- ・15秒以内に気絶
- ・2～3分で死亡

両親及び保護者への安全メッセージ

- ・子供、特に3歳未満の子供が過ごす場所に安全性に欠ける窓カバーのひもがあると、命に関わる場合があります。
- ・子供の首に、ひものループが絡まると、窒息する可能性があります。
- ・事故は9歳までの子供に発生していますが、大部分は、3歳未満の子供に発生しています。
- ・安全性に欠けるひもの付いた窓カバーが設置されている場所なら、それが、家のどこであっても窒息による死傷事故が発生する可能性があります。
- ・窒息事故の多くは、保護者が一般的に安全だと思っている子供のベッドルームやリビングルームで起こります。
- ・窒息は、急に、静かに発生します。

- ・事故の起こりにくいブラインドやシェード（スクリーン）も販売されています。

安全な使用

- ・御家庭にある全てのシェード（スクリーン）やブラインドについて、製品の側面、後面、後側に、手が届く状態でひもが出ていないか、念入りに調べましょう。
- ・窓の近くにベビーベッドやベッド、家具を置かないでください。これは、御自宅においても訪問先においても注意が必要です。幼児のいる御家庭では、それを踏み台にして窓カバーのひもに子供の手が届いてしまうためです。ひもの付属していない窓カバー、ひもが幼児の手に届かない窓カバー又はひもが幼児の手の届かないような安全装置を取り付けた窓カバーを御使用ください。
- ・ひもは幼児の手の届かない高い位置にあること、危険なループ状になっていないことを定期的に確認しましょう。ひもは高い位置で結ぶか、又は簡単に入手できるひも留め具やクリップのような安全器具を使いましょう。

【キャンペーン実施機関及び国】

経済協力開発機構（OECD）、欧州連合、オーストラリア連邦、ベルギー王国、ブラジル連邦共和国、カナダ、チリ共和国、コロンビア共和国、クロアチア共和国、キプロス共和国、チェコ共和国、フィンランド共和国、フランス共和国、アイスランド共和国、イスラエル国、日本、大韓民国、ラトビア共和国、マルタ共和国、メキシコ合衆国、ペルー共和国、ポルトガル共和国、スイス連邦、トルコ共和国、英国、アメリカ合衆国

【2016年「ブラインド等窓カバーのひもの安全性」に関する国際啓発キャンペーンサイト】

<http://www.oecd.org/sti/consumer/Window-Covering-Cord-Safety-Campaign.htm>

ブラインド等窓カバーのひもの安全性に関する OECD 国際啓発キャンペーン

各国におけるブラインド等窓カバーに関する事故の報告は次のとおり

オーストラリア連邦:ブラインド又はカーテンのひもによる窒息の結果、毎年オーストラリア人の子供が1、2名死亡している。2001年以降、オーストラリアでは、この手の死亡事故が少なくとも21件あった。

ベルギー王国: 事故情報なし。

ブラジル連邦共和国: 2000年から2013年までの間で、窒息による死亡が540件登録された。(訳注: 詳細は不明。窓カバーに関連する窒息死亡事故の件数は明らかでない。) 以下2つの原因が考えられる。: 1. ベッドの中での偶発的酸素供給障害による窒息とその他の窒息 2. 他の偶発的窒息

カナダ: 1996年以降、カナダ保健省は、ひも付き窓カバーに関連する、絡まる危険について44件の報告を受けた。44件の報告のうち、29件が死亡(24件カナダ人; 5件在留外国人)、11件損傷、4件無傷と報告があった。

チリ共和国: 2015年6月に発生したひも付き窓カバーに関する窒息事例が1件報告された。子供は1歳9か月であった。

フィンランド共和国: ひも付き窓カバーによる死亡事故が1件あった。2010年に3歳の幼児が巻き上げ式ブラインドのひもにより窒息した。ひも付き窓カバーによる傷害・事故に関するその他の情報や、安全でないひも付き窓カバーが現在も家庭内でどれくらい使用されているか等についての情報は無い。

フランス共和国: 2004年から2014年までに、3件の致命的でない事故(入院治療を必要としない)と1件の死亡事故があった。致命的でない事故は1歳、2歳及び9歳の子供に関連していた。死亡事故は3歳の子供に関連していた。

アイスランド共和国: 巻き上げ式ブラインドのひもが首に絡まった2歳の男児に関する1件の事故があった。母親が近くにおり、救出した。

イスラエル国：データの調査と研究は、子供達の安全のための組織「Beterem」によって行われた。データの調査は、0歳から17歳までの子供を対象に、窓シェードによる損傷を調査した。

救急病棟に運ばれた子供の損傷状況（3件）

年齢	性別	危害	場所	状況
4	男	強打/損傷	家庭	
2	女	切傷/突き傷	家庭	家でシェードで遊んでいた。シェードとレールが落ち、額に傷。
0	男	強打/損傷	家庭	遊んでいる時に顔にシェードが落ちた。

入院に至った損傷状況

女兒が椅子を使って窓枠に登った。窓シェードにもたれて落ちた。

メディアによって報道された事故の損傷状況

2歳児が他の2人の子供たちと託児所の隅に座っていた。保育士が子供たちを昼食に呼んだ時、その子供が返事をしないことに気付いた。その子供は誰にも気づかれないうちに窒息した。警察は、子供たちが窓シェードでゲーム感覚で遊んでいるうちに、ひもが子供の首に絡まったと推測する。

日本：2011年から2015年までに、3件の死亡事故と6件の致命的でない事故があった。事故に関連した子供の平均年齢は2歳であった。

大韓民国：2013年から2015年までに、ひも付き窓カバーの絡まりに関連して、7歳未満の子供が関連する5件の事故が報告された。1件が死亡事故であった。

スイス連邦：子供に関連する事故情報なし。

トルコ共和国：窓のひもに関連する事故が1件のみ報告。4歳の女兒が窒息により死亡した。

英国：1999年から2016年までに、ひも付き窓カバーによる死亡事故28件と事故になり得た事例11件が確認された。

アメリカ合衆国：1996年から2012年までに、窓カバーのひもに関連して、8歳以下の子供に関連する184件の窒息死の報告と101件の致命的でない窒息の報告があった。

ブラインド等のひもは命に関わります

子供の窒息を防ぎましょう

幼児のいる御家庭では、ひもが付属していない、又はひもが幼児の手に届かないブラインド等を御使用ください。

御家庭にある全てのシェード（スクリーン）やブラインドについて、製品の前側、側面、後側に、手が届く状態でひもが出ていないか、念入りに調べましょう。

子供が踏み台にしてブラインド等のひもに手が届いてしまわないよう、窓の近くにベビーベッドやベッド、家具を置かないで下さい。

ひもが幼児の手の届かない高い位置にあること、危険なループ状になっていないことを定期的の確認しましょう。